

「ワカモノによる地方創生」議事要旨録

(開催要領)

- 1.開催日時: 令和2年 11 月 29 日(日)13:00~15:15
- 2.場 所: KAB熊本朝日放送 本社スタジオ

3.登壇者 :

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局次長 新井孝雄

株式会社氷川のぎろっちょ 代表取締役社長 兼 農業部長 竹山実李

地域づくり部長 兼 広報部長 堀川桃子

鹿児島県立川内商工高等学校 加治屋優奈・小村好

熊本県立人吉高等学校 吉川優矢・蓑田悠翔・本田希帆・立作夏菜・溝口郷

新渡戸文化高等学校 統括校長補佐／一般社団法人 Think the Earth | SDGs for School アドバイザ

ー 山藤旅間

(プログラム)

1. 開会挨拶及び施策説明

「今後の地方創生の方向性」について 新井 孝雄

2. 講演①「未来の光を、観せるために!! まちの課題を見つけ、会社を設立して奮闘中」 株式会社氷川のぎろっちょ 竹山実李・堀川桃子

2. 講演②「観光による薩摩川内市チャレンジ大作戦 地方創生を目指した4年間の取り組み」 鹿児島県立川内商工高等学校 加治屋優奈・小村好

2. 講演③「ボラ観～ボランティア×観光～」 熊本県立人吉高等学校 吉川優矢・蓑田悠翔・本田希帆・立作夏菜・溝口郷

3. パネルディスカッション

ファシリテーター

山藤旅間

パネリスト

株式会社氷川のぎろっちょ 竹山実李・堀川桃子

鹿児島県立川内商工高等学校 加治屋優奈・小村好

熊本県立人吉高等学校 吉川優矢・蓑田悠翔

4. 閉会挨拶

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶及び施策説明

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「将来にわたって活力ある地域社会の実現」と「東京圏への一極集中の是正」を目指し、地方創生に取り組むこととしています。

新型コロナウイルス感染症の克服と経済活性化の両立のため、地方創生テレワークの推進や、地方大学の産学連携の強化と体制の充実、スーパーシティ構想の推進を図っていくとともに、地方創生臨時交付金を各自治体に交付していきます。

ワカモノによる地方創生に関連し、中高生が自身のキャリア設計を描く際に大学や企業への進路という視点のほか、地方で働くことや、将来設計や生活設計の視点も加えてください。若いころに地元や自分の将来の生き方について考える機会を、持っていただきたいです。東京在住の20代・30代の約4割が地方暮らしに関心を有しているものの、実際に検討している若者は2割にも満たないことがわかりました。日本の人口減少や東京一極集中を主体的に取り組むべき問題として捉え、同世代の皆さんで地元や自分の将来の生き方について考え、議論する場を持ってください。

2.①講演「未来の光を、観せるために!! まちの課題を見つけ、会社を設立して奮闘中」

子ども記者クラブや課題解決コースでの学びから、地域の課題発見や解決、地域や人に希望や元気を提供することを目的として活動していく中で、耕作放棄地問題に注目し株式会社を設立しました。クラウドファンディングで資金調達し、株式会社とすることで本気度を示しました。

地元や自社の多くの課題を横串で考え、「新・ムーンライト伝説」という企画を実行し、アイデアコンテストで最優秀賞の評価をいただきました。人口減少社会においてはジェネラリストの育成が不可欠です。子ども時代から社会的経験を多く積み、私たちの町だけでなく、日本の未来の光が見えるよう、今後さらに頑張っていきます。

2.②講演「観光による薩摩川内市チャレンジ大作戦 地方創生を目指した4年間の取り組み」

薩摩川内市は鹿児島県でも比較的大きな町です。しかし、「住みたい街ランキング」「魅力ランキング」では町の規模程上位ではありません。RESASの分析結果をもとに「観光」の認知度の低さを課題に据えました。産官学連携のもと、映像やポスター、SNSを活用したPR活動を実施しました。コロナ禍において「地域活性＝観光」という図式に疑問を抱き、健康を軸とした地域活性プランへ変更しました。地方創生とは地元愛を原動力に住民みんなで街を作り上げるものだと考えます。今後も地域活性化に向けて薩摩川内市をPRしていきます。

2.③講演「ボラ観～ボランティア×観光～」

人吉・球磨では人口の減少が深刻な問題となっており、平成31年には地元の高校が閉校になりました。そうした中で、人吉球磨を将来に残したい、地図から消したくないという思いが生まれました。地元主催の海外研修に参加時に偶然、神奈川県私立聖光学院高校と互いの地域課題について話し合う機会があり意気投合、両校の交流会を経てボラ観が誕生しました。

若者の地域への興味が薄れている中で、地域活性化には「若い人が地元を知ること」が大切だと考えました。そして若者が動く大人も刺激を受けます。人吉・球磨豪雨災害で人吉・球磨は復興できるか否かの転換期に立ちました。復興の担い手は近いうちに社会人となる私たち高校生です。だからこそ私たちは災害復興ボランティアに参加し、今の状況を目に焼き付け、学び、成長することが必要です。ボラ観での学びを、人吉・球磨の未来へ活かしていきたいと思います。

3. パネルディスカッション

① 思いのめばえ ～過去～

堀川(氷川のぎろっちょ):

親に勧められて小学3年生の時に子ども記者クラブに入ったことがきっかけです。

竹山(氷川のぎろっちょ):

小学5年生の時に、国語で文章や感想文・作文の苦手意識を少しは克服できるかもという思いで記者クラブに入ったのがきっかけです。

加治屋(川内商工高等学校):

先輩たちの動画発表会を見て動画編集課題を選択したことがきっかけです。

小村(川内商工高等学校):

日常的に動画を見る中で、編集技術に興味を持ったことがきっかけです。

吉川(人吉高等学校):

高校1年生の3学期にボラ観の存在を知りました。地元が好きで地域活性化の必要性を感じていたので少しでも貢献できればと軽いノリで参加したことがきっかけです。

藁田(人吉高等学校):

高校1年生の時に、淡々と過ごす日常に疑問を感じ2年生になったらボランティアをやろうと思っていた矢先、ボラ観の発表を目にしてかっこいいと思ったことがきっかけです。

② 思いをカタチに ～現在～

加治屋(川内商工高等学校):

人に何かを伝えられるような動画を作れたらいいなと思いました。

小村(川内商工高等学校):

短い動画の中でどのようにすれば感情に訴えかけることができるのか、その大切さを学び、これからもっと勉強したいと思いました。

吉川(人吉高等学校):

先輩に頼りきりだった時に、急に自分が主導で動かなければならない状況になり思うように動けなかったことがありました。それ以来、主体的に参加して動いていけるようになりました。

蓑田(人吉高等学校):

ボラ観の定義が先輩方と自分たちの代で食い違うことがありました。その時に話し合い、双方が納得できる基本理念「人吉球磨を地図から消したくない」で意思の統一を図ることができたことが大きな転機でした。

竹山(氷川のぎろっちょ):

株式会社を設立した時です。難しい、無理という声もありましたが本気度を示すため、逆に「やってやろうぜ！」と仲間たちと一緒に燃えた時です。

堀川(氷川のぎろっちょ):

失敗することもありましたが、仲間たちと試行錯誤を重ねていくにつれ成長することができました。仲間といると楽しいし、日々進化していると実感しています。

③思いのゆくえ ～未来～

吉川(人吉高等学校):

地域活性化は継続していくことが大事だと思っています。後輩たちにも引き継いでいてもらいたいです。

蓑田(人吉高等学校):

地域の課題に向かって色々活動していく高校生がもっと増えたらとんでもないことができるんじゃないかと思っています。予測できないことにも負けない、耐えられるような地域づくりが必要だと思っています。

加治屋(川内商工高等学校):

これからは健康を題材にして薩摩川内市の魅力を伝えていけたらと思っています。

小村(川内商工高等学校):

健康をテーマに自分の大好きな故郷である甑島取材したいです。魅力や良さを全国・全世界に発信していきたいです。

竹山(氷川のぎろっちょ):

こういう活動を後輩たちに別の形でもいいので引き継いでいてもらいたいです。引き継がれながら日本全国に広まって行ってほしいです。

堀川(氷川のぎろっちょ):

人とのつながりを大事にこれからも活動を進めていきたいと思います。力が足りない部分は大人の人たちに協力してもらいながらネットワークを広げて一緒に活動していきたいです。

4.閉会挨拶

以上